

タイ駐在員レポート ～現地生活に見る経済と最新動向～

7月より当行の福島行員が、タイ最大の民間商業銀行であるバンコック銀行に着任し、2023年12月から駐在している巻行員と共に現地体制を強化いたしました。今後は現地ネットワークに加え、シンガポール子会社の77 NEXT CONSULTINGとも連携し、皆さまのビジネスを力強くサポートしてまいります。

本号では、その一環として、現地の経済・生活の様子をご紹介します。



写真左：巻行員、右：福島行員

Topics1

タイ政治経済の直近動向

タイ中央銀行（BOT）は、2025年のタイ経済成長率を2.3%程度にとどまると予測しています。これは、他の主要ASEAN諸国の4～5%前後という見通しと比べると低い水準です。著名俳優の誘拐事件をきっかけに中国人観光客が減少しているほか、高水準の家計債務が個人消費を抑制し、景気の重しとなっています。こうした状況を踏まえ、BOTは8月13日に政策金利1.75%から1.50%へ0.25%引き下げました。

タイとカンボジア国境では5月以降軍事的緊張が高まり、7月には衝突で30人以上が死亡しました。7月末に停戦合意を発効したものの一部地域では戦闘が断続しており、不安定な情勢は解消されていません。観光や国境貿易への影響が懸念されるなか、両国は「早期の正常化」を目指す姿勢を示していますが、根本的な政治的対立が解消されない限り緊張が再燃するリスクは残されています。

これらの動きに関連し、内政面では一層の混迷が強まっています。憲法裁判所は8月29日、カンボジアとの国境問題を巡る電話会談での発言が倫理規範に違反したと判断し、ペートンタン首相の解職を決定しました。これにより下院で新たな首相を指名する選挙が実施される見通しで政治の停滞は避けられません。世論調査では軍への信頼が強まっており、今後の政権運営に軍が大きな影響力を持つ可能性も指摘されています。



国民の団結訴える目的で広告モニターへ投影されているタイ国旗

【タイ・カンボジア国境問題の経緯】

年代/日付	主な出来事
11世紀ごろ	クメール人によってプレア・ビヒア寺院建立
1904年2月	フランスとシャム（現タイ）が国境協定を締結（基礎合意）
1907年	Annex I地図作成。後の領有権争いで国際司法裁判所（ICJ）判決の根拠となる
1962年6月	ICJがプレア・ビヒア寺院をカンボジア領と裁定
2008年7月	カンボジア単独で寺院を世界遺産登録。タイで反発、国境にて軍事衝突が頻発
2013年11月	ICJが寺院周辺地域もカンボジア領と再確認。タイ側は一部に反発
2025年5月	国境周辺で銃撃戦発生
7月24日	大規模衝突発生、戦闘により数十人死亡、約30万人が避難
7月28日	マレーシアの仲介により「即時・無条件」の停戦合意に至る
8月以降	小康状態が続く中、会談再開を模索中

出典：UNESCO「世界遺産センター」、国際司法裁判所等の公的資料および国際報道機関記事等より、七十七銀行市場国際部作成

Topics2

現地生活の中での気づき

▶ 大都会バンコク

皆さんは「バンコク」と聞いて、どのような印象をお持ちでしょうか。屋台やマーケットが並び発展途上の都市を思い浮かべる方も少なくないかもしれません。しかし、実際に訪れてみると、その印象は大きく変わります。都市鉄道網は整備され、高層ビルや最新のショッピングモールが立ち並び、街中には大型デジタルモニターが点在するなど、都市機能の高度化が進んでいます。私自身、コロナ禍以前にも訪れたことがありましたが、その後の数年で高層マンションや近代的な施設がさらに増え、変化のスピードに驚かされました。

一方、市場（いちば）などを訪れると、そこにはローカルな人々の暮らしが広がっており、歴史的な寺院や市場が近代都市と調和しつつ共存しています。まだ訪れたことのない方は、ぜひ足を運んでみてください。LCCを利用すれば、時期によっては東京から往復5万円程度で訪れることも可能です。



バンコク中心部のサイアム駅周辺



バンコク中心部・クロントゥーイ市場の様子

▶ キャッシュレスの浸透

タイでは政府主導でキャッシュレス化が急速に進んでいます。その中心的な仕組みが「PromptPay」で、スマートフォン上で送金や支払いを完結できるよう整備されています。アプリを通じて個人間送金や店舗での支払いが簡単にでき、手数料も基本無料です。支払いの際には「スキャン」と伝えれば支払い用QRコードが提示され、スマホで読み取るだけで決済が完了します。政府による加盟店手数料の補助や税制優遇といった支援策も後押しとなり、利用は急速に浸透しました。都市部ではコンビニや公共料金の支払いにも幅広く対応しており、日本よりもキャッシュレス化が進んでいると感じる場面が少なくありません。その一方で、ローカルレストランでは首からQRコードを下げて物乞いをする幼い少女（6歳ほど）の姿を目にし、胸が痛みました。キャッシュレスの利便性が広がる一方で、社会の課題も垣間見えた場面でした。



路上の小さな屋台でもほとんどがQRコード支払いに対応しています

▶ 中国メーカーEVの普及

タイの新車市場ではトヨタが約4割のシェアを占め、依然として首位を維持しています。しかし、拡大するEV市場に限れば様相は一変します。2024年のEV新車登録台数のうち8割以上を中国メーカーが占め、BYDだけで全体の約4割に達しました。中国勢は補助金制度への迅速な対応や現地生産を進めるなど攻勢を強めています。

一方、日本勢は慎重な姿勢が目立ち、ホンダや日産は生産拠点を縮小するなど厳しい局面にあります。そのなかでトヨタは「2028年にはより手頃な価格のEVをタイ市場へ投入する」という計画を掲げ、巻き返しに向けた姿勢を示しています。今後、手頃な価格を実現するにあたって、従来の日本企業サプライチェーンを維持できるのかなど、戦略が注目されます。



街を走るEV
(左奥と手前がBYD、右奥がMG)

▶ 日本食レストラン

バンコクには非常に多くの日本食レストランがあります。市内全体には約2,700店があるとされており、面積あたりで見ても日本の地方都市を大きく上回る水準です。タイ人からの人気も高く、週末には行列ができることも珍しくありません。最近では居酒屋やラーメン、うどんなど、気軽に楽しめる業態の出店が増加傾向にあります。

タイ料理がおいしいだけでなく、日本の味が恋しくなったときにも困らないのがバンコクです。



日本食店が集まるタニヤ通り周辺

— バンコクの風景—電線—

海外では日本と異なる街並みに驚かされることがありますが、タイの電線事情もその一つです。バンコク市内では、電柱に複雑に絡み合った電線や通信ケーブルがびっしりと張り巡らされている光景が見られます。実際に電力が通っているのは上部の電線で、多くは電話線やインターネット回線だそうです。歩道に垂れ下がっている箇所もあり、過去には漏電による感電事故も報告されています。安全のため、むやみに近づかない方が賢明です。

現在、バンコク銀行本店周辺を含む都市部では電線の地下化が段階的に進められており、この独特の景観もいずれは見納めとなるかもしれません。



バンコクの至る所で目にする光景

(タイ・バンコク駐在 福島 将太)

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/



本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。